

## 横山忠弘作品集1、2について

## 「歴史研究」特集 横山忠弘著作集

(含史談往来、コラム、本部会員懇談会)

※表中カッコ内は掲載誌

号	年 号	月 号	号 数	特 集 名	横山忠弘著作集題名
1	平成9年(1997) (平成22年(2010))	1月号 (10月号)	第428号 (第269号)	毛利元就の謎 (「歴研・神奈川」)	(名族毛利氏の苗字が永らえた謎)
2	平成13年(2001)	1月号	第476号	北条時宗の時代	北条時宗出現の背景
3	平成13年(2001)	7月号	第482号	蒙古襲来の謎	元寇、勝利の真因と神風史観
4	平成14年(2002)	1月号	第500号	日本史を動かした人物	武士の時代を前倒しした白河法皇
5	平成15年(2003)	4月号	第503号	鎖国と開国の謎	鎖国と開国は為政者の賢明な選択だった。
6	平成15年(2003)	11月号	第510号	史談往来	鎌倉権五郎景正の故地専念寺に史碑建立
7	平成15年(2003)	12月号	第511号	対決の日本史	中蔵円月対北畠親房
8	平成16年(2004) (平成19年(2007))	1月号 (12月1日号)	第512号 (創立25周年記念誌)	幕末維新日本人の夢 (歴研よこはま)	(吉田松陰と弟子たちの夢)
9	平成16年(2004)	3月号	第514号	鎌倉幕府滅亡の謎	武家政権は七百年続いた
10	平成16年(2004)	5月号	第516号	【コラム】博物館めぐり	小田原市 尊徳記念館
11	平成16年(2004)	6月号	第517号	新撰組の正体	新撰組の内ゲバ
12	平成16年(2004)	9月号	第520号	日露戦争の謎	日露戦争の遠因とその後の展開
13	平成17年(2005)	1月号	第524号	源平の世紀	吾妻鏡の義経にその時代をみる
14	平成17年(2005) (平成22年(2010))	3月号 (11月30日号)	第526号 (第65号)	女帝の時代 (歴研よこはま)	(女帝の時代は日本歴史の画期だった)
15	平成17年(2005)	7月号	第530号	武田一族の謎	安芸守護武田氏の興亡
16	平成18年(2006)	1月号	第536号	20世紀日本人の遺書	曾祖母の昔話と私の戦中・戦後体験
17	平成18年(2006)	3月号	第538号	日中歴史問題を考える	日中歴史問題の源流秀吉の朝鮮出兵
18	平成18年(2006)	6月号	第541号	後のつく天皇	後がつく天皇と歴史の潮流
19	平成18年(2006)	9月号	第544号	南北朝の内乱	護良親王ここに眠る
20	平成18年(2006)	11月号	第546号	史談往来	熊谷直実八百回忌に子孫集う
21	平成18年(2006) (平成20年(2008))	12月号 (9月号)	第547号 (第244号)	三種の神器の謎 (歴研神奈川)	(記紀と学術上の三種の神器)
22	平成19年(2007)	4月増頁号	第550号	明治天皇とその時代	明治天皇・戸塚宿・柏尾川
23	平成19年(2007) (平成20年(2008))	5月号 (4月号)	第551号 (第239号)	渡来人とは (歴研神奈川)	(渡来人から帰化人へ)
24	平成19年(2007)	9月増頁号	第554号	第159回本部会員懇談会	故湯川安雄先生を偲んで―戸塚三題―
25	平成19年(2007)	10月号	第555号	大田道灌と江戸城	江戸城の歴史―大田道灌から徳川家康へ―
26	平成19年(2007)	12月号	第557号	女たちの幕末維新	天璋院(篤姫)と静寛院(和宮)
27	平成20年(2008)	3月増頁号	第559号	邪馬台国の新視点	邪馬台国は畿内大和だ
28	平成20年(2008)	4月増頁号	第560号	豊臣一族の謎	秀吉の朝鮮征伐と豊臣一族の崩壊
29	平成20年(2008)	6月号	第562号	安政という時代の謎	安政生まれの曾祖父の生き様と語伝え
30	平成20年(2008)	9月増頁号	第564号	坂東八平氏の謎	今に愛され崇拝されている坂東八平氏
31	平成20年(2008) (平成23年(2011))	10月号 (2月号)	第565号 (第273号)	徳川一族の謎 (歴研神奈川)	(徳川三百年を支えた将軍と幕閣・側用人)
32	平成20年(2008)	12月号	第567号	戦国武将の名誉回復	山中鹿介幸盛の毀誉豹変
33	平成21年(2009)	1・2月新春合併号	第568号	私の好きな日本の英雄	元寇に勝利した北条時宗
34	平成21年(2009)	3月増頁号	第569号	継体天皇の謎	継体天皇の王朝継承
35	平成21年(2009)	4月増頁号 (5月号)	第570号 (第571号)	鎌倉仏教の謎 (史談往来)	(時宗開祖一遍と四世呑海)

番号	年 号	月 号	号 数	特 集 名	横山忠弘著作集題名
36	平成 21 年 (2009)	9 月増頁号	第 574 号	第 170 回本部会員懇談会	相模国坂東八平氏と時宗総本山清浄光寺 (遊行寺)
37	平成 21 年 (2009)	11 月号	第 576 号	足利一族の謎	足利尊氏・義詮・義満三代の毀誉褒貶
38	平成 21 年 (2009)	12 月	第 577 号	紀州熊野の謎	紀州熊野と小栗判官・照手姫
39	平成 22 年 (2010) (平成 24 年 (2012))	1・2 月新春合併号 (11 月号)	第 578 号 (第 294 号)	日本史の虚像と実像 (歴研神奈川)	(朝鮮征伐に豊臣秀吉の虚像・実像を視る)
40	平成 22 年 (2010)	3 月増頁号	第 579 号	天孫降臨の謎	日本神話から日本建国へのアプローチ
41	平成 22 年 (2010)	4 月増頁号	第 580 号	平城遷都千三百年	祝平城遷都千三百年
42	平成 22 年 (2010)	9 月号	第 584 号	第 175 回本部会員懇談会	紀州熊野と小栗判官・照手姫
43	平成 22 年 (2010)	10 月号	第 585 号	吉備の国の謎	記紀、古墳、吉備津神社に視る大和と吉備の王権
44	平成 22 年 (2010) 平成 23 年 (2011)	11 月号 (8 月号)	第 586 号 (第 279 号)	細川一族の謎 (歴研神奈川)	(時代を乗切った文化人細川頼之と細川藤孝)
45	平成 22 年 (2010)	12 月号	第 587 号	戦国三姉妹の謎	苛烈な戦国の世に翻弄された三姉妹
46	平成 23 年 (2011)	1・2 月新春合併号	第 588 号	ライバルの日本史・世界史	保元・平治の乱の平清盛と源義朝
47	平成 23 年 (2011) (平成 23 年 (2011))	3 月号 (5 月 31 日号)	第 589 号 (第 66 号)	日本国家成立の謎 (歴研よこはま)	(倭国から日本国への道程)
48	平成 23 年 (2011)	4 月号	第 590 号	藤原王朝の栄光と陰謀	道鏡天皇を阻止した藤原一族
49	平成 23 年 (2011) (平成 23 年 (2011))	5 月号 (9 月号)	第 591 号 (第 594 号)	小早川一族の謎 (史談往来)	(小早川氏の元祖土肥実平と小早川隆景正室問田の大方)
50	平成 23 年 (2011) (平成 26 年 (2014))	11 月号 (2 月号)	第 596 号 (第 309 号)	赤松一族の謎 (歴研神奈川)	(足利幕府に寄添ったり反抗したり、赤松一族の消長)
51	平成 23 年 (2011)	12 月号	第 597 号	平清盛の新研究	皇胤平清盛、波乱万丈の生涯を視る
52	平成 24 年 (2012)	1・2 月新春合併号	第 598 号	名誉回復の日本史	田沼意次、松平定信それぞれの名誉回復
53	平成 24 年 (2012)	4 月号	第 600 号	創刊 600 号と私の歴史研究	『歴史研究』と私
54	平成 24 年 (2012)	5 月号	第 601 号	中尊寺金色堂の謎	中尊寺金色堂と奥州藤原氏の栄光と惨劇
55	平成 24 年 (2012)	6 月号	第 602 号	松平一族の謎	徳川家康の遠祖は松平氏女婿の遊行僧
56	平成 24 年 (2012)	9 月号	第 604 号	濃尾平野治水の歴史	薩摩島津藩の木曾三川分流工事とその行方
57	平成 24 年 (2012) (平成 25 年 (2013))	11 月号 (2 月号)	第 606 号 (第 297 号)	伝説の中の真実 (歴研神奈川)	(世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の小栗判官・照手姫物語)
58	平成 25 年 (2013)	1・2 月新春合併号	第 608 号	名誉回復の日本史 II	平将門の名誉回復振りを視る

【特別収録】わが著作の原点 1、直実公の遺徳と栄光を慕った後裔達の足跡 2、広島原爆を挟んだ私の戦中戦後体験 3、熊谷次郎直実公(蓮生)と後裔達 …略  
【著者略歴】…略

## 横山忠弘著作集Ⅱ 目次

### はじめに

#### (1) 『歴史研究』誌 特集『横山忠弘著作集』の出版

私は平成二七年八月に、基本的には総合出版社歴研発行の『歴史研究』特集に投稿して同誌に掲載された、平成八年六月から平成二五年一月間における私の論文集を総合出版社『歴研』から『横山忠弘著作集』として出版した。これは歴史項目五十編、特別収録三編から成っている。

## (2) 地域歴研『横浜歴史研究会』及びテーマー歴研『中国の歴史と文化を学ぶ会(中文会)』への私の投稿論文

一方において私は次の(イ)、(ロ)のことをも平行して行って来た。

(イ) 平成八年五月に地域歴研『横浜歴史研究会』に入会以降平成九年から毎年一回は同会の月例会に研究発表しており、この研究発表を基にした論文を年二回発行の会誌『歴研よこはま』に投稿し掲載されたが、この論文テーマーは『歴史研究』特集テーマーに関連するものが多かった。

(ロ) また、平成十二年一月にはテーマー歴研『中国の歴史と文化を学ぶ会(中文会)』に入会して以降、平成十三年から毎年一回欠かさず月例会に研究発表しており、これを基にした論文は年一回発行の会誌『ちゅうぶん』に掲載されたが、これら論文も『歴史研究』特集テーマーに関連しているものが多かった。

## (3) 横山忠弘著作集(Ⅱ)の出版

これら(2)(イ)及び(ロ)に係る私の論文は『特集』の論文と違って、概して長文で表や図、写真が多く、論文そのものも、より具体的で迫真性をも兼ねていたのでこれ等の論文を集約したところ、『歴研よこはま』が25編、『ちゅうぶん』が15編計40編となった。しかしながら、これらから既刊の『横山忠弘著作集』との重複、錯綜する編を除き、最終的には40編から19編へと絞込み、この度『横山忠弘著作集(Ⅱ)』として、編集・進行等を神奈川歴史研究会理事武士俣光也氏、出版を総合出版社歴研吉成勇氏にそれぞれお願いして出版しようとするものであります。

平成二十八年七月吉日

横山 忠弘

### 1、山内首藤氏と穴戸氏の軌跡—頼朝没後八百年によせて—

#### 【主な参考文献】

『全訳吾妻鏡』新人物往来社、『鎌倉室町人名辞典』新人物往来社、  
『毛利一族のすべて』新人物往来社、『源頼朝の世界』永井路子、『源頼朝のすべて』奥富敬之『堂々日本史(22)』NHK編

▼『歴研よこはま』(平成11年8月(第45号))

### 2、元寇の勝利と神国思想

【主な参考文献】『日本史広辞典』山川出版社、『鎌倉室町人名辞典』、『世界史年表・地図』吉川弘文館、  
『総合日本史図表』第一学習社、『岩波講座世界歴史』岩波書店、『古代東アジア世界と日本』西嶋定生、  
岩波現代文庫

▼『ちゅうぶん』(平成13年9月(中文会創立15周年記念誌))

### 3、平安律令政権と鎌倉武家政権との相剋—大河ドラマ【北条時宗】によせる—

【主な参考文献】『全訳吾妻鏡』新人物往来社、『日本史広辞典』山川出版社、『鎌倉室町人名辞典』新人物往来社、

▼『歴研よこはま』（平成13年10月（第50号））

#### 4、近世日中文化交流史から近現代を展望する

【主な参考文献】『世界史年表・地図』吉川弘文館、『総合日本史図表』第一学習社、『朝日百科日本の歴史』朝日新聞社、『中国文化辞典』寺尾善雄、河出書房新社、『新しい歴史教科書』扶桑社、『歴史教科書大論争』新人物往来社、

▼『ちゅうぶん』（平成14年7月（第16号））

#### 5、皇祖呉太伯伝説と天神後裔史観—倭人の起源—

【主な参考文献】『日本の古代1』森浩一編中公文庫、『日本人はるかな旅』4巻、NHK『日本の時代史⑩南北朝の動乱』吉川廣文館

▼『ちゅうぶん』平成15年7月（第17号）

#### 6、昭和天皇と二宮金次郎—歴史上心に残る人物像—

▼『歴研よこはま』平成15年12月（第53号）

#### 7、戦前・戦後の、昨今の私の中国観

▼『ちゅうぶん』平成17年7月（第18号）

#### 8、日露戦争前後の日米英—日露の戦いとその後の日本—

▼『歴研よこはま』平成16年11月（第55号）

#### 9、開戦時の首相東条英機—大正・昭和前期の難局に生きた人物像—

▼『歴研よこはま』平成17年6月（第56号）

#### 10、好きな人物・嫌いな人物の筆頭、豊臣秀吉の実像

【主な参考文献】『日本の時代史③「天下統一と朝鮮侵略、池亮編」吉川廣文館』、『武将列伝（中）』海音寺潮五郎、文藝春秋社、『日本の合戦（5 織田信長、6 豊臣秀吉、7 徳川家康）桑田忠親編』人物往来社、『日本の歴史7巻、天下統一、読売新聞社』

▼『歴研よこはま』平成17年11月（第57号）

#### 11、変貌著しい靖国神社—私の「靖国神社問題考」

【主な参考文献】靖国神社関連年表

▼『歴研よこはま』平成18年5月（第58号）

#### 12、倭人から日本人への道程

【主な参考文献】『歴史読本「渡来人は何をもたらしたか」』新人物往来社、『日本の中の朝鮮文化』金達寿、河出書房新社、『神武東遷・高天原の謎』安本美典、中公新書外、『騎馬民族国家』江上波夫、『騎馬民族は来なかった』佐原真、NHK、『帰化人』上田正昭、中公新書、『古代中国と倭族』、『古

代朝鮮と倭族』、『弥生の王国』何れも鳥越憲三郎、中公新書。

▼『ちゅうぶん』平成18年9月（中文会創立20周年記念誌）

### 13、韓国併合の道程—私の「韓国併合是非論」—

【主な参考文献】『日本と韓国・朝鮮の歴史』中塚明、(株)高文研、『日韓併合』森山茂徳、『日韓いがみあいの精神分析』岸田透、金両基、中央公論社、『日本を変えた大事件100』新人物往来社

▼『歴研よこはま』平成18年11月（第59号）

### 14、明治の脱亜・滅亜・興亜各論とその行方

【主な参考文献】『日本と中国』中嶋嶺雄編著、東京書籍、『岩波講座・世界歴史20』岩波書店、『日本史広辞典』山川出版社

▼『ちゅうぶん』平成20年7月（第22号）

### 15、石原莞爾の生涯と満州国

【主な参考文献】

『共同研究「転向」』下巻、思想の科学研究会編、平凡社（昭和37年刊）、『石原莞爾—生涯とその時代』阿部博行著、法政大学出版局（平成17年刊）、『東京裁判』太平洋戦争研究会編、新人物往来社（平成15年刊）、『日中阿片戦争』江口圭一著 岩波新書（昭和63年刊）

▼『ちゅうぶん』平成21年7月（第23号）

### 16、横浜開港百五十年生みの辛酸の道程—横浜開港百五十年—

▼『歴研よこはま』平成21年11月（第63号）

### 17、戦後の日中関係史

【主な参考文献】『中国（歴史・社会・国際関係）』中嶋嶺雄著、中公新書、昭和57年刊、『昭和史Ⅱ（1945～89）』中村隆英著、東洋経済新報社、平成5年刊、『国史大辞典』吉川弘文館、平成5年刊、『日本史大辞典』平凡社、平成5年刊、『私たちは中国で何をしたか』中国帰還者連絡会編、新風書房、平成7年刊。『幾山河』瀬島龍三回想録、産経新聞社、(株)扶桑社、平成7年刊、『戦後50年をどう見るか』歴史学研究会編、青木書店、平成7年刊、『孫に語り伝える「満州」』坂本龍彦著、岩波ジュニア新書、平成10年刊、『岩波講座世界歴史』（26）（27）、岩波書店、平成15年刊、『日本の戦後（上）』田原総一郎、講談社、平成15年刊。『東急裁判』太平洋戦争研究会編、新人物往来社、平成15年刊、『日本の時代史』（26）（27）（28）吉川弘文館、平成16年刊。『靖国問題入門』河出書房新社、平成16年刊

▼『ちゅうぶん』平成22年7月（第24号）

▼『ちゅうぶん』平成23年9月（第25号）

## 18、東アジア世界の中の日本—古代～近代

### 【主な参考文献】

『古代東アジア世界と日本』西嶋定生 岩波現代文庫

▼『ちゅうぶん』平成24年9月（第26号）

## 19、古代中国・朝鮮・日本と倭族

### 【主な参考文献】

『古代中国と倭族』、『古代朝鮮と倭族』、『弥生の王国』何れも鳥越憲三郎、中公新書。